

# VMware vRealize Automation 6.2.4 リリース ノート

最終更新日 2017年03月01日

**更新日: 2017 年 3 月 1 日**

vRealize Automation 6.2.4 | 2016 年 3 月 15 日 | ビルド 3624994

VMware Identity Appliance 6.2.4.1 | 2016 年 4 月 14 日 | ビルド 3730901

vRealize Automation Application Services 6.2.4 | 2016 年 3 月 15 日 | ビルド 3631043

これらのリリース ノートへの追加や更新を確認してください。

## リリース ノートの概要

本リリース ノートでは、次のトピックについて説明します。

- [新機能](#)
- [システム要件、インストール、およびアップグレード](#)
- [ドキュメント](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)
- [廃止された機能とサポート](#)

## 新機能

vRealize Automation の本リリースでは、「[解決した問題](#)」セクションに記載の修正のほか、次の機能拡張が含まれます。

- プロビジョニングおよび再構成リクエストの結果を vRealize 管理インターフェイス上でレポート
- REST API を使用してプロビジョニングされたマシンの入力パラメータ、カスタム プロパティおよびプロパティ ディクショナリの検証
- 時間と日付を英国式で表示する機能
- vRealize Automation 7 Standard、vRealize Suite 7 Advanced および vRealize Suite 7 Enterprise ライセンスの使用

- System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) でプロビジョニングされた仮想マシンの再構成および編集
- vRealize Automation 6.2 OpenStack エンドポイントでの Keystone v3 Identity Provider のサポート
- Solaris OS でのゲスト エージェントの使用
- ゲスト エージェントによる InstallSoftware スクリプトのコマンド ライン引数の判別および復号化
- vRealize Automation プロパティに対応した名前を Application Director で表示可能
- エンドポイントで、次の製品バージョンをサポート：
  - vCloud Director 5.6.4 および 8.3.1
  - vRealize Orchestrator 6.0.4
  - vSphere 5.5 Update 3 および 6.0 Update 2

**重要：** このアップデートでは、VMware Client Integration Plug-in に関連するセキュリティ脆弱性を解決しています。共通脆弱性識別子 (CVE) プロジェクト ([cve.mitre.org](https://cve.mitre.org)) は、識別子 CVE 2016-2076 をこの問題に割り当てました。

この問題を解決するには、VMware Identity Appliance 6.2.4.1 のアップデートをインストールし、続いて VMware Client Integration Plug-in をアップデートします。プラグインをアップデートするには、[VMware のナレッジベースの記事 KB2145066](#) を参照してください。

## システム要件、インストール、およびアップグレード

サポート対象のホスト オペレーティング システム、データベース、および Web サーバについては、[vRealize Automation のサポート マトリックス](#) (英語) を参照してください。

その他の前提条件およびインストール手順については、VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント センターの「[vRealize Automation Installation and Configuration](#)」を参照してください。

vRealize Automation 6.2.4 にアップグレードするには、VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント センターの「[Upgrading to vRealize Automation 6.2 or Later](#)」の手順に従います。

## ドキュメント

vRealize Automation のドキュメント セットには、vRealize Automation 6.2.4 で導入された新機能に関する情報が追加されています。

[VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント](#) Web ページで、すべてのドキュメントをご確認いただけます。

## ドキュメントに関する既知の問題

- **Advanced Service Design**

単一のアカウントを使用して外部 vRealize Orchestrator サーバへの接続を構成する場合、アカウントは vRealize Orchestrator の vcoadmins グループのメンバー、または表示および実行権限を持つグループのメンバーである必要があります。

## 解決した問題

### インストールとアップグレード

- **vRealize Automation のオープン ソース GNU C Library (glibc) がバージョン 2.11.3-17.95.2 にアップデート**

これにより、CVE-2015-7547 に記載されている致命的なセキュリティ脆弱性が修正されます。

この問題は解決しました。

- **vRealize Automation をアップグレードする際、DBUpgrade スクリプトが失敗する**  
データベース名にスペースが含まれているとアップグレード スクリプトが失敗します。

この問題は解決しました。

- **VMware vRealize Automation 6.2.x IaaS のインストールまたはアップグレードを実行すると次のエラーが表示されて失敗する: exited with code -1**

この問題は、IaaS 仮想マシンに Java Runtime Environment (JRE) 1.8 がインストールされているために発生します。

**回避策:** Java Runtime Environment (JRE) 1.8 をアンインストールし、JRE 1.7 をインストールします。 [ナレッジベース 2101591](#) を参照してください。

この問題は解決しました。

### 再構成中

- **再構成中にハード ディスクが予期せずに削除される**

再構成中のハード ディスクに関する次の問題が解決しました。

- RDM ディスクを含む仮想マシンを再構成すると、ハード ディスクが削除される。
- 複数のブラウザ タブで再構成の操作を実行すると、ハード ディスクおよび NIC が予期せずに削除される。

[ナレッジベース 2124657](#) および [ナレッジベース 2124198](#) を参照してください。

この問題は解決しました。

# 既知の問題

既知の問題には次のトピックが含まれます。

- [インストールとアップグレード](#)
- [移行](#)
- [国際化](#)
- [ネットワーク](#)
- [Application Services](#)
- [Advanced Service Designer](#)
- [構成とプロビジョニング](#)

既知の問題で以前記載されていなかったものには、\* 記号が付加されています。

## インストールとアップグレード

- **vRealize Automation アプライアンスの展開後、管理コンソールにログインできない\***  
Internet Explorer 10 を使用して vRealize Automation 管理コンソールにログインすると、エラー メッセージが表示されます。

**回避策:** Internet Explorer 11、Firefox、または Chrome ブラウザを使用して管理コンソールにログインします。

- **vRealize Automation 6.2.3 から 6.2.4 へのアップグレードの後で vRealize Code Stream パイプラインを実行できない\***  
vRealize Automation 6.2.3 を 6.2.4 にアップグレードした後、パイプラインの実行に失敗することがあります。この問題は、vRealize Orchestrator の WEB-INF lib フォルダに orchestrator-framework-6.2.3.jar ファイルが含まれていない場合に発生します。

**回避策:** 次の手順でこの問題を修正します。

1. `./usr/lib/vcac/server/webapps/release-management-service/WEB-INF/lib/` の `orchestrator-framework-6.2.3.jar` ファイルを `./usr/lib/vco/app-server/deploy/vco/WEB-INF/lib` にコピーします。
2. vCO-Server サービスを再起動します。

- **.Net 4.5.2 によって vRealize Automation IaaS のインストールが失敗する**  
.NET 4.5.1 を 4.5.2 にアップグレードすると、次のエラー メッセージが表示される場合があります：  
`Files (x86)\VMware\VCAC\Server\Model Manager Data\DynamicOps.ManagementModel.dll" -s "sql_server.your_company_name.com" -d "vCAC" -c "C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC\Server\Model Manager Data\ManagementModelSecurityConfig.xml" -v.`

**回避策:** .NET 4.5.2 にアップグレードするために、Microsoft 社が提供するインストール手順に従って、最新の Windows アップデートをインストールし、システムを再起動します。

- **/etc/hosts ファイルに加えた変更が特定の条件下で上書きされる場合がある**

/etc/hosts ファイルを変更した後に、次のいずれかのアクションを実行すると変更が上書きされる場合があります。

- 再起動
- ネットワーク変更
- 管理コンソールの [ネットワーク] タブでの変更
- アップグレード

**回避策:** /etc/hosts ファイルに永続的な変更を加えるには、VAMI\_EDIT\_BEGIN から VAMI\_EDIT\_END までのセクション以外にその変更を加える必要があります。これは、ネットワーク変更が検出された場合にこのセクションが上書きされるためです。

- **vCenter Platform Services Controller 6.0 にアップグレードした後で、vRealize Automation にログインするとエラーが発生する**

vCenter Platform Services Controller 6.0 にアップグレードした後で、vRealize Automation にログインする際に、「VMware Client Integration Plugin のエラーにより Windows セッション認証ログインが失敗しました」という内容のエラーメッセージが表示されます。

「vmware\_csd プロセスを実行するアプリケーションがありません」というメッセージのダイアログボックスが表示されることもあります。ログインするには Client Integration Plugin 6.0 が必要です。

**回避策:** <http://vsphereclient.vmware.com/vsphereclient/VMware-ClientIntegrationPlugin-6.0.0.exe> から Client Integration Plugin をダウンロードし、vRealize Automation に再度ログインします。

- **vSphere 6.0 にvCenter Platform Services Controller 6.0 が導入されたことにより、vsphere.local 以外のテナント名を指定できてしまう**

vRealize Automation を構成する際、仮想アプライアンスの [SSO] タブにテナント名を入力できないため、vRealize Automation には、デフォルトのテナント名として vsphere.local が必要です。

**回避策:** vSphere 6.0 では、テナント名を vsphere.local から変更しないでください。

- **vCenter Server 5.5 U2 から 6.0 にアップグレードすると、vSphere Web Client ログイン画面に vCenter Single Sign-On の代わりに vCloud Automation Center が表示される**  
Platform Services Controller が構成された vCenter Server が、vRealize Automation でも構成されている場合に、vCenter Server をアップグレードすると、vSphere Web Client のログイン画面に、VMware vCenter Single Sign-On ではなく VMware vCloud Automation Center が誤って表示されます。これは、vRealize Automation で、**[ブランディングの適用]** オプションが選択されていない場合にも発生します。

- Platform Services Controller 6.0 にアップグレードした後にデフォルトのテナント URL ([https://FQDN\\_VA/vcac](https://FQDN_VA/vcac)) にアクセスすると、vRealize Automation アプライアンスの SSO 登録でポート 7444 が有効でなくなったために 400 Request エラーが発生する  
仮想アプライアンスをアップグレードされた Platform Services Controller 6.0 インスタンスに再登録しようとする、仮想アプライアンスに、「ホスト vra-va-hostname.domain.name およびポート 7444 でリモート SSO にアクセスしようとしています、返されるホストは vra-va-hostname.domain.name およびポート 443 です」という内容のエラーメッセージが表示されます。

**回避策:** 次のタスクを実行してください。

1. 完全修飾ドメイン名、<https://vra-va-hostname.domain.name:5480> を使用して、vRealize Automation アプライアンス管理コンソールに移動します。
2. ユーザー名 root と、アプライアンスをデプロイしたときに指定したパスワードを使用してログインします。
3. **[vRA の設定]** タブをクリックします。
4. **[SSO]** をクリックします。
5. SSO サーバの設定を入力します。これらの設定は、SSO アプライアンスを構成する際に入力した設定と一致する必要があります。
  - a. **[SSO ホスト]** テキスト ボックスに sso-va-hostname.domain.name の形式で、SSO アプライアンスの完全修飾ドメイン名を入力します。プリフィックス <https://> は使用しないでください。たとえば、vra-sso-mycompany.com のように入力します。
  - b. **[SSO ホスト]** テキスト ボックスには、デフォルトのポート番号 7444 が表示されています。この値を 443 に変更します。
  - c. デフォルトのテナント名 vsphere.local は変更しないでください。
  - d. **[SSO 管理者ユーザー]** テキスト ボックスに、デフォルトの管理者名 administrator@vsphere.local を入力します。
  - e. **[SSO 管理者パスワード]** テキスト ボックスに、SSO 管理者パスワードを入力します。
  - f. **[ブランディングの適用]** を選択します。
  - g. **[設定の保存]** をクリックします。
  - h. **[OK]** をクリックします。

数分後、成功のメッセージが表示され、[SSO ステータス] が [接続中] に更新されます。
  - i. **[サービス]** タブに移動し、すべての仮想アプライアンス サービスが実行されてから製品に再度ログインしてください。

- Identity Appliance 管理コンソールのスプリット DNS 構成で警告が表示される  
スプリット DNS 構成で、Active Directory ドメインに参加することを選択している場合、Identity Appliance 管理コンソールに警告が表示されます。この警告メッセージは無

視してかまいません。

**回避策：** コマンドラインで `domainjoin-cli --disable hostname command` を実行し、手動でドメインに参加します。vCenter Server Appliance は同じ `domainjoin-cli` コマンドのこの構文を使用します。

- **IaaS カスタム インストール オプションを使用した Manager Service コンポーネントのインストールに失敗する**

データベース、Web サイトおよび Model Manager Data コンポーネントがすでに配置されているマシンに Manager Service コンポーネントをインストールすることはできません。Manager Service コンポーネントをインストールしようとするすると失敗し、「仮想アプリケーション `vcac` は存在します」という内容のエラーメッセージが表示されます。

- **ノードと管理コンソール間のネットワーク接続が遅いためにログが最終バンドルに含まれない**

タイムアウトを超過すると、ログがアップロードされず、最終バンドルに含まれません。現在は、ノードでコマンドの実行が開始されてから 30 分後にタイムアウトするように固定されています。タイムアウトは、ノードと管理コンソール間のネットワーク接続が遅い場合に発生する可能性があります。

- **カスタマイズされた SQL ポートを使用すると前提条件チェッカーで設定が検出されない**

カスタム インストールを実行し、カスタマイズされたインスタンスとポートを使用して、SQL のデータベース ノードを選択すると、Microsoft 分散トランザクション コーディネータ (MSDTC) が正しく構成されていて、MSDTC サービスが実行されていて、前提条件チェッカーで設定が検出されません。

**回避策：** MSDTC が実行されていることを手動で検証し、前提条件チェッカーで [バイパス] をクリックしてインストールを続行します。

- **6.1 から 6.2 にアップグレードすると、Identity 仮想アプライアンスのログイン ページに VMware vCloud Automation Center が表示される**

VMware vCloud Automation Center を 6.1.x から vRealize Automation 6.2 にアップグレードすると、Identity 仮想アプライアンスのログイン ページに VMware vRealize Automation ではなく、VMware vCloud Automation Center がブランド名として表示されます。

**回避策：** 管理コンソールの [SSO] タブに移動し、[設定の保存] を選択して、Identity 仮想アプライアンスに再登録します。新しいブランド名が表示されます。

- **停止したマシンでアーカイブ ログが見つからない**

一部のマシンでアーカイブ ログが見つからない場合、マシンが停止状態かアクセス不能な状態です。

- **インストール ウィザードを使用して vRealize Automation データベースをカスタム ディレクトリにインストールすることができない**

分散カスタム インストールでは、インストーラは、デフォルト データベースとログ ディレクトリの変更を無視します。データベースとログは、デフォルトのディレクトリに作成されます。

**回避策：**データベースをカスタムの場所にインストールするには、vRealize Automation をインストールする前に DBinstall スクリプトを使用してデータベースをインストールします。

- **共通名に大文字が含まれていると、シングル サインオン証明書の検証に失敗する**  
シングル サインオン アプライアンスに証明書を割り当てると、すべての文字列が小文字に変換されます。検証プロセスでは大文字と小文字が区別されるため、プロセスが失敗します。証明書名に大文字が含まれていても、検証プロセスで検索されるのはすべて小文字の名前であるためです。

**回避策：** [vRealize Automation Appliance] > [vRA 設定] > [SSO] で SSO ホスト アドレスを指定する際、SSO アプライアンスへ証明書を割り当てる場合と同様に、大文字小文字を区別してアドレスを入力します。

- **不正なホスト名が指定されると、インストールに失敗する**

次のようなエラーが表示され、インストールに失敗します。

情報: 2014-06-17 10 42 32 059 AM : System.AggregateException: One or more errors occurred.---> System.Net.Http.HttpRequestException: An error occurred while sending the request.---> System.Net.WebException: The remote name could not be resolved: 'po-va-rtq8c.sqa.local'Cause: 原因: [vCAC 設定] > [ホストの設定] の [VCAC HostName] フィールドに不正な名前が入力されると、問題が発生します。

**回避策：**

1. /etc/sysconfig/network/dhcp の仮想アプライアンス構成ファイルを編集して、正しいホスト名を入力します。
2. 仮想アプライアンスを再起動します。
3. 仮想アプライアンス管理コンソールにログインします。
4. [vRA 設定] タブを開き、[ホストの設定] をクリックします。
5. [ホスト名] テキスト ボックスに正しい名前を入力します。
6. [設定の保存] をクリックします。  
[ホスト名の解決] をクリックしないでください。
7. 仮想アプライアンスの構成を完了し、インストールを続行します。

## 移行

- vRealize Automation 5.2.x から vApp を移行すると、vApp コンポーネントと vApp コンテナで表示される削除日が異なる



vRealize Automation 5.2x から移行した vApp では、コンポーネントとコンテナで表示される削除日が一致しません。コンポーネントには有効期限と同じ日が削除日として表示されますが、コンテナには正しい情報が表示されます。vRealize Automation ではコンテナ情報を基に vApp リースが管理されるため、コンポーネントが有効期限日より前に削除されることはありません。

- **移行後、[イベントのカレンダー] ポートレットに正しい作成日が表示されない**  
移行後、[イベントのカレンダー] ポートレットで、移行したすべてのアイテムの移行日が作成日として表示されます。この問題は、実際の日付または正しい日付に関わらず発生します。

## 国際化

- **[アイテム] タブの仮想マシン名に ASCII 以外の文字が使用されていると、スナップショットを作成できない**  
[アイテム] タブの仮想マシン名に ASCII 以外の文字が使用されていると、仮想マシンのスナップショットを作成できません。

**回避策：**スナップショットを作成するには、英数字を使用して仮想マシンの名前を変更します。

- **Unicode 文字を含むゲスト エージェント カスタム スクリプトが、無限ループのままとなる**  
スクリプト名に Unicode 文字を含むカスタム スクリプトをゲスト エージェントに使用すると、仮想マシンはプロビジョニングされず、リクエストは無限ループのままとなります。

**回避策：**スクリプト名に Unicode 文字を使用しないでください。

## ネットワーク

- **複数の VDR ルーティング ネットワークでロード バランシングが有効になっている場合、同じ NSX Edge が使用される**  
マルチマシン ブループリントにおいて複数の VDR ルーティング ネットワークでロード バランシングが有効な場合、両方のエッジのアップリンク側のネットワークに、1 つの NSX Edge が接続されます。この状況では、1 台以上のロード バランサ仮想サーバがアクセス不能になることがあります。
- **vCenter Server でネットワークを再構成した後に、vRealize Automation の仮想マルチマシン コンポーネントで誤ったネットワーク設定が表示される**  
vRealize Automation では、仮想マルチマシン コンポーネントの vCloud Networking and Security または NSX ネットワークを再構成することはできません。代わりに、vSphere Client を使用して vCenter Server のネットワークを再構成する必要があります。仮想マ

ルチマシン コンポーネントの一部のネットワーク設定が vRealize Automation に正しく表示されなくなることにご注意してください。

**回避策:** vCenter Server でネットワークを更新し、適切なネットワーク設定をリストアします。

## Application Services

- **SSO ユーザーが Application Services にログインできない**

vRealize Automation が起動されて実行される前に Application Services が再起動されると、SSO ユーザーは、Application Services にログインできません。

**回避策:** Application Services を起動または再起動する前に、vRealize Automation が実行されていることを確認します。

- **グローバル プロキシ設定を構成したかどうかにかかわらず、展開環境のプロキシ設定が使用されない**

darwin\_global.conf ファイルでプロキシ設定をグローバル構成しているかどうかにかかわらず、展開環境レベルでプロキシ設定を構成しても、そのプロキシ設定が展開時に適用されません。

- **vRealize Automation 6.2 を使用して Application Director から vRealize Automation のカタログにブループリントを公開することができない**

vRealize Automation を 6.0.1.x または 6.1 から 6.2 にアップグレードし、vRealize Automation カタログにブループリントを公開しようとする時、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」という内容のエラーメッセージが表示されます。この問題は、vRealize Automation 6.2 で新規登録された Application Director のインスタンスでは発生しません。

**回避策:** Application Director 6.0.1.x または 6.1 を vRealize Automation 6.2 から登録解除して、もう一度 Application Director を vRealize Automation に登録します。

- **テナント間の物理サービスおよび Application Services を削除すると、ファブリック管理者のアクセスが拒否される**

テナント間の物理サービスおよび Application Services を削除すると、ファブリック管理者はアクセス拒否メッセージを受け取ります。

**回避策:** マシンが存在するテナントのファブリック グループのファブリック管理者としてログインします。

- **Application Service で、ブループリント キャンバス内のディスクに説明を追加できない**

Windows Internet Explorer 11 を使用する場合は、ブループリント キャンバスの [ディスク] タブで、ディスクに説明を追加できません。

**回避策：**ブループリント キャンバス内のディスクに説明を追加するには、Chrome または Firefox を使用する必要があります。

## Advanced Service Designer

- **接続のテスト時に、エラー「Orchestrator サーバに接続できません。」が表示される**  
vRealize Automation 管理コンソールへのログイン中に接続をテストし、「Orchestrator サーバに接続できません。」という内容のエラーが表示されると、vRealize Orchestrator エンドポイントが登録されません。この問題は不規則に発生します。

**回避策：**この問題を解決するには、Orchestrator サービスを再登録する必要があります。

1. vRealize Appliance Linux コンソールに root としてログインします。
2. 「vcac-vami vco-service-reconfigure」と入力し、Enter キーを押します。
3. ログアウトして、vRealize Orchestrator の接続をテストします。

- **vRealize Orchestrator プレゼンテーションのバインド後に Advanced Service Designer のフィールド値の制約が評価されない**  
申請フォームを設計する際に、フィールドの制約にフォームの別のフィールドへのバインドが使用されており、その別のフィールドの値が vRealize Orchestrator プレゼンテーションで定義されたバインド式に基づいて計算されていると、制約が正しく適用されません。フィールド間のバインドは、vRealize Orchestrator プレゼンテーションまたは Advanced Service Designer フォームのいずれかで定義されている必要があります。
- **誤ったフィールド チェックが Advanced Service Designer で発生する場合がある**  
作成モードでエンドポイント タイプを変更すると、誤ったフィールド チェックが発生することがあります。

**回避策：**次の手順を実行してください。

1. エンドポイント作成ウィザードが開いている場合は、これを閉じます。
2. 新しいエンドポイント作成ウィザードを開始します。
3. ウィザードの最初のページで正しいプラグインのタイプを選択します。
4. [フォーム プレゼンテーション] タブで、必要なデータを入力します。
5. 構成を保存します。

適正なフォームのコンディショナル制約が実行されます。

- **Advanced Service Designer でサービス ブループリントまたはリソース アクションを作成できない**  
Advanced Service Designer でサービス ブループリントまたはリソース アクションを作成しようとする、[次へ] をクリックしたときにプロシージャが失敗して、次のエラーメッセージが表示されることがあります。vInternal Error. 内部エラーが発生しました。問

題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。その際、次の参照番号を使用してください。原因は、vRealize Orchestrator ワークフローに String 配列型の入力パラメータが存在し、そのパラメータがプレゼンテーション内で事前定義された Answer プロパティを持っていることにあります。事前定義されたプロパティは、null を返す可能性のあるスクリプト アクションを呼び出します。

**回避策：** vRealize Orchestrator クライアントの [デザイン] インターフェイスで、定義済み回答のアクションを編集し、null を空の配列に置き換えます。たとえば、次のアクション スクリプト コードがあるとします。

```
if (someCondition) {  
    return ["a", "b", "c"];  
} else {  
    return null;  
}
```

コードを次のように変更する必要があります。

```
if (someCondition) {  
    return ["a", "b", "c"];  
} else {  
    return [];  
}
```

## 構成とプロビジョニング

- **vRealize Automation で IP アドレスがプロビジョニングされたマシンに割り当てられない\***

vRealize Automation 6.2 の仕様変更により、アドレス割り当てが機能するためには、予約に含まれているネットワーク プロファイル内で IP アドレスの範囲を指定する必要があります。ネットワーク プロファイルに IP アドレス範囲が含まれていない場合は、システムは IP アドレスをプロビジョニングされたマシンに割り当てません。

**回避策：** ネットワーク プロファイル内に IP アドレスの範囲を設定する必要があります。「[Configure IP Ranges](#)」を参照してください。

- **プロビジョニングされたマシンの所有者または説明の変更に失敗することがある\***  
プロビジョニングされたマシンの所有者や、プロビジョニングされたマシンの説明を更新する場合、リクエストを送信した直後に処理が成功したことが示されます。しかし、リクエストは実際には失敗していることがあります。

**回避策：** リクエストが成功したかどうかを判断するには、リクエストのログと最近のイベントを確認します。

- **SCVMM によってプロビジョニングされた仮想マシンの再構成\***

System Center Virtual Machine Management (SCVMM) を使用してプロビジョニングされた仮想マシンの場合、次の内容が適用されます。

- ストレージとネットワークの設定を再構成することはできません。[再構成] ページではストレージとネットワークの設定に対する追加、更新、削除のオプションは利用できません。
- CPU とメモリの設定は再構成することができます。
- 再構成のリクエストを送信した後、SCVMM エンドポイントに常駐するマシンはパワーオフして再構成され、再構成の前の状態にリストアされます。
- 再構成は、vRealize Automation バージョン 6.2.4 をインストールまたはバージョン 6.2.4 にアップグレードした後で作成したマシンに対してのみ自動的に実行されます。6.2.4 の前にプロビジョニングされたマシンは、ブループリントを修正した後でのみ再構成できます。バージョン 6.2.4 では、すべての SCVMM ブループリントに再構成を許可するオプションがあります。

○ **再構成の失敗によって、SCVMM 仮想マシンがパワーオフの状態のままになる\***

仮想マシンを System Center Virtual Machine Management (SCVMM) を使用してプロビジョニングした場合、パワーオンの状態の仮想マシンを再構成しようとする、再構成が失敗し、マシンはパワーオフの状態になります。通常は再構成されたマシンは再構成の前の状態に戻る、これは予期しない動作です。

**回避策:** vRealize Automation コンソールを使用してマシンをパワーオン状態に戻します。

○ **クローン、基本仮想マシン、リンク クローン仮想マシンのいずれかをプロビジョニングする際、サービス カタログからの申請が失敗する**

vCenter Server を 6.0 から 6.0U1 にアップグレードし、vRealize Automation を 6.2.0 から 6.2.2 にアップグレードした後、プロビジョニングが失敗します。エラー メッセージ「申請が失敗しました：マシン : CloneVM: オブジェクト参照がオブジェクトのインスタンスに設定されていません。」には、エラーの原因についての適切な情報は提供されません。

**回避策:** IaaS マシンの該当の vCenter Server に割り当てられていた vSphere エージェントを再インストールし、データの収集を開始します。

○ **[ビジネス グループの編集] ページでユーザー名の一部を使用してユーザーを検索できない**

[ビジネス グループの編集] ページのグループ マネージャ ロール、サポート ロール、またはユーザー ロールの各フィールドで名前的一部分を使用して検索すると、次のエラーが表示されます。「検索中にエラーが発生しました：(エラー メッセージはありません)」このエラーは、ネイティブの Active Directory が構成されているデフォルトのテナントにのみ発生します。

**回避策:** ユーザーを検索する際は、完全修飾ドメイン名を入力します。

- **大きなマルチマシンのブループリントからマシンをプロビジョニングする場合にマルチマシンの仮想マシン名が長すぎると、エラー メッセージが表示される**

マルチマシンのブループリントからマシンをプロビジョニングする場合、対象のマシン名の一覧で許容される文字の合計数は 503 文字です。このイベントに対して、監査ログに次のエラー メッセージが作成されます ([**インフラストラクチャ**] > [**監視**] > [**監査ログ**])。エラーはマルチマシンのプロビジョニング プロセスには影響しません。

[エラー]: System.Data.UpdateException: エントリの更新中にエラーが発生しました。詳細については、内部例外を参照してください。---> System.Data.SqlClient.SqlException: 文字列またはバイナリ データが切り詰められます。

**回避策:** エラーを回避するには、マルチマシンのブループリントのブループリントの数を減らすか、または関連付けられているマシン名を短くします。

- **vSphere の予約で NetApp FlexClone ストレージの検証がサポートされない**

予約サービス API を使用して予約を作成すると、その予約に割り当てられているすべてのストレージが FlexClone をサポートしている場合でも、NetApp FlexClone は有効になりません。

**回避策:** ユーザー インターフェイスを使用して予約を作成します。

- **Active Directory から削除されたユーザーが vRealize Automation のいくつかの領域に残る**

Active Directory からユーザーを削除しても、そのユーザーは [**資格**] タブの [**資格**] リストおよび [**承認ポリシー**] リストに残ります。申請にこのユーザーの承認が必要である場合は、次のエラーで承認が失敗します。Status Details The Request approval has returned with an error.

**回避策:** Active Directory にユーザーを戻すか、または承認ポリシーを削除して再作成し、このユーザーへのすべての参照を削除します。

- **再構成の承認リクエストのコストが正しく表示されない**

既存のマシンのコンピュート リソースのコストを変更して、より多くのメモリ、CPU、およびストレージで再構成しても、再構成の承認リクエストのコストが正しく表示されません。その代わりに、古い値が表示されます。

- **[メトリック プロバイダの構成] タブにエラーが表示される**

vRealize Automation メトリック プロバイダが最初から選択されている [**メトリック プロバイダの構成**] タブに移動し、[**vRealize Operations のエンドポイント**] を選択し、vRealize Automation メトリック プロバイダに戻り、[**保存**] をクリックすると、「強調表示されているエラーを修正してください」という内容のエラー メッセージが表示されます。

**回避策:** ブラウザを更新するか、vRealize Automation ユーザー インターフェイスからログアウトし、ログインし直します。

- **カスタマイズ中のエラーが原因で、vApp がプロビジョニングに失敗する場合がある**  
vApp テンプレートの仮想マシンのハードウェア設定を変更してからテンプレートを更新すると、エンドポイント データ収集を実行しない限り、仮想マシンをプロビジョニングすることができなくなります。
- **ユーザーに新しいロールが付与された後、タブが更新されない**  
ユーザーに新しいロールを付与した後、ログアウトしてから再度ログインし直しても、そのロールの特定のタブが少なくとも 5 分から 10 分の間表示されないことがあります。
- **以前追加したポートレットが [ホーム] タブで完全にレンダリングされない場合がある**  
Internet Explorer 8 または 9 を使用して vRealize Automation にログインし、[ホーム] タブで追加のポートレットを追加すると、vRealize Automation にすでに表示されている以前のポートレットが完全にはレンダリングされないことがあります。

**回避策：**ブラウザを更新します。

- **新しいオペレーティング システムのバージョンを使用して事前定義済みの Puppet ベースの Test App 1.0.0 または Puppet ベースの Test App 1.0.1 を展開するとエラーが発生する**

事前定義済みの Puppet ベースの Test App 1.0.0 または Puppet ベースの Test App 1.0.1 のブループリントで新しいオペレーティング システムのバージョンを作成および使用し、アプリケーションを展開する場合、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」という内容のエラーメッセージが表示され、展開に失敗します。

**回避策：**新しいオペレーティング システムのバージョンではなく、ブループリントで事前定義済みのオペレーティング システムのバージョンを再使用します。

- **プロビジョニングされたマシンのアクションが終了する前に完了のマークが付けられる**  
[再プロビジョニング]、[パワーオフ] などのアクションは、操作が処理中であっても [申請] ページに [完了] と表示されることがあります。マシンの実際のステータスは、[アイテム] ページに反映されます。
- **ゲスト エージェント ファイル SCCMPackageDefinitionFile.sms を更新する必要がある**  
ゲスト エージェント ファイル SCCMPackageDefinitionFile.sms には、古い名前と公開者情報があります。これは、動作には影響しません。
- **リース日を [承認ポリシー] 値の範囲外に変更できる**  
**リースの変更** リソース アクションを使用すると、リース日をブループリントで指定されている最大リース範囲以降の日付に変更できます。

- **削除したカスタム グループが資格から削除されない**

資格にリンクされているカスタム グループが削除された場合、カスタム グループは資格から削除されません。

**回避策：**カスタム グループを削除して、資格から削除するには、次の手順を実行します。

- 資格からカスタム グループを削除します。
- カスタム グループを削除します。

- **ビジネス グループ ロールをカスタム グループから削除しても、資格を破棄できない**  
資格にリンクされたカスタム グループをビジネス グループ ロールから削除した場合、カスタム グループは資格から削除されません。

**回避策：**ビジネス グループ ロールをカスタム グループから削除して、資格から削除するには、次の手順を実行します。

- 資格からカスタム グループを削除します。
- ビジネス グループ ロールからカスタム グループを削除します。

- **Hyper-V マシンがインフラストラクチャ オーガナイザで誤って管理対象外のマシンとして表示される**

Hyper-V マシンでプロビジョニングが失敗すると、vRealize Automation はそのマシンを破棄されたマシンとしてレポートします。マシンはエンドポイントにとどまり、インフラストラクチャ オーガナイザで管理対象外のマシンとして表示されます。

- **Citrix XenDesktop/Provisioning Service マシンをプロビジョニングした場合、マシンがプロビジョニングされていない状態のままになる**

この問題は VMware VDI エージェントおよび Citrix、BMC、Opware、VBScriptAgent などのすべてのバージョンの VMware EPI エージェントに発生する場合があります。この問題はまた、マスター ワークフロー マシン プロビジョニング サイクル全体にわたってさまざまな時点で発生する場合があります。

すべてのサード パーティのサーバ要求を処理できるように、空白のままにせずに、特定のサーバ名を使用するようにエージェントがインストールされた可能性があります。特定のサーバ名が入力されている場合、このエージェントはこのサーバ名に正確に一致するサーバの要求のみを処理できます。vRealize Automation はカスタム プロパティ EPI.Server.Name または VDI.Server.Name の値を使用して、一致するエージェントを特定し、要求を処理します。一致するエージェントが見つからない場合、マシンはプロビジョニング中に一致するエージェントが見つかるまで、EPIRegister/プロビジョニング済みマシン状態、またはプロビジョニング解除/無効マシン状態のままとなります。



**回避策:** EPI.Server.Name/VDI.Server.Name で入力されたサーバ値と正確に一致する新しい EPI/VDI エージェントをインストールするか、サーバ名を空白のままにします。または、次の手順に従って、現在のエージェントのエージェント構成ファイルを更新して、サーバ値を変更できます。

1. 通常、C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC\Agents\<agentName>\VRMAgent.exe.config に保存されているエージェントの構成ファイルをバックアップします。
2. 管理者としてテキスト エディタを開きます。
3. 任意のエージェントのタイプに対する変更を行うには、SERVER\_NAME\_VALUE を使用しているサーバ名で置き換えるか、空白のままにします。  

```
epiIntegrationConfiguration epiType="CitrixProvisioning"  
server="SERVER_NAME_VALUE"  
vdiIntegrationConfiguration vdiType="XenDesktop" server=""X
```
4. 変更内容を保存します。
5. エージェント サービスを再起動します。
  - a. **スタート > 管理ツール > サービス** をクリックします。
  - b. 目的の VMware vRealize Automation エージェント サービスを右クリックして、**[再起動]** をクリックします。
  - c. エージェントが正常に再起動した後、ジョブは想定どおりに続行されます。

。 **管理者が数百ものグループのメンバーである場合、[インフラストラクチャ] タブを開こうとすると失敗する**

Active Directory と SSO を使用する場合、多くのグループのメンバーである IaaS 管理者は [インフラストラクチャ] タブを表示できない場合があります。これを試みると、次のいずれかのエラーが発生します。

- 不正なリクエスト - リクエストが長すぎます - HTTP エラー 400. リクエスト ヘッダのサイズが長すぎます。
- サービスにアクセスできません - 指定アドレスで要求されたサービスに接続できません。詳細はシステム管理者にお問い合わせください。参照エラー REP0404。

**回避策:** 次の例のようにトークンの制限を引き上げます。

1. Kerberos トークンの最大サイズを決定して設定します。正しい Kerberos トークンの最大サイズを決定するには、以下のガイドラインに従います。

$$\text{Kerberos MaxTokenSize} = 1200 + 40d + 8s \text{ (バイト)}$$

この式は次の値を使用します。

値	説明
d	ユーザーがメンバーになっているドメインのローカル グループの数、ユーザーがメンバーになっているユーザーのアカウント ドメインの外

部にあるユニバーサル グループの数、およびセキュリティ ID (SID) 履歴に表示されるグループの数の合計。

秒 ユーザーがメンバーになっているセキュリティ グローバル グループの数およびユーザーがメンバーになっているユーザーのアカウント ドメイン内のユニバーサル グループの数の合計。

1200 チケット オーバーヘッドの推定値。この値は、DNS ドメイン名の長さやクライアント名などの要素によって変化します。

2. レジストリ エントリの修正が必要かを判断します。式を使用して計算するトークン サイズがデフォルト サイズの 12,000 バイト未満の場合、ドメイン クライアントの MaxTokenSize レジストリの値を修正する必要はありません。値が 12,000 バイト以上の場合、MaxTokenSize レジストリの値を調整します。

<http://support.microsoft.com/kb/263693> を参照してください。Kerberos の

MaxTokenSize の値を変更する必要がある場合は、次のレジストリ エントリを修正します。

```
HKLM\System\CurrentControlSet\Control\Lsa\Kerberos\Parameters
```

```
MaxTokenSize, REG_DWORD, <value>
```

MaxTokenSize レジストリ エントリの推奨値は 10 進数の 65535 または 16 進数の FFFF です。

3. 次のガイドラインを使用して、展開するための正しい HTTP の最大リクエスト サイズを決定および設定します。ここで、*T* は手順 2 で設定した Kerberos の MaxTokenSize です。

$$\text{MaxFieldLength} = (4/3 * T \text{ バイト}) + 200$$

$\text{MaxRequestBytes} = (4/3 * T \text{ バイト}) + 200$  MaxFieldLength と MaxRequestBytes を計算された値に設定します。次の例では、許可される最大値に設定されています。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\HTTP\Parameters
```

```
MaxFieldLength DWORD 65534
```

```
MaxRequestBytes DWORD 16777216
```

ユーザーが多くのグループに属する場合に Kerberos 認証で発生する問題については、次の Microsoft の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/327825>

<http://support.microsoft.com/kb/263693>

<http://support.microsoft.com/kb/2020943>

## 廃止された機能とサポート

次に示す廃止された機能は、vRealize Automation の今後のリリースでサポートが終了します。廃止された機能は、VMware で引き続きサポートされており、vRealize Automation の現在のリリースでは引き続きテクニカル サポートおよびエンジニアリングによる修正の対象となります。

## 相互運用性

次に示す廃止されたソフトウェア リリースのいずれかを現在使用している場合は、新しいリリースに移行することをお勧めします。これらのソフトウェア リリースは、vRealize Automation が新しいリリースをサポートするまで引き続きサポートされます。

### ブラウザ

- Internet Explorer 8 および 9

### データベース

- External PostgreSQL または vPostgres アプライアンス
- SQL Server 2008 R2

### ゲスト OS

- Red Hat Enterprise Linux 5.x、6.0、6.1、6.2、6.3、6.4
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2
- Windows 8

### VMware プラットフォーム

- vSphere 4.x
- vCloud Director 5.1
- vRealize Business 6.1
- vRealize Orchestrator 6.0

### サード パーティのプロビジョニング

- BMC BladeLogic 7.6 および 8.2
- Cisco UCS Manager 2.0 および 2.1
- Citrix PVS 6.0
- Citrix XenDesktop 5.5、7.0、7.1、7.5
- Citrix XenServer 5.6
- HP Software Server Automation 7.8
- Hyper-V 2012
- KVM 3.1
- NetApp FlexClone OnTap 7.3.1.1
- Red Hat OpenStack Grizzly および Havana